

アジアの友

The Asia-no Tomo

12-1

DECEMBER-JANUARY

2010-2011

留学生の就職状況

「留学生の就活Ⅲ」 日本大学 本部学生支援部就職課

ABK 同窓生募金 タイ報告





開催！ (10/23)

「ABK インターナショナル秋祭り」を文京グリーンコートさくら広場で開催しました。

不安定な天気が続いていたので天候が心配されましたが、当日は爽やかで気持ちの良い秋晴れに恵まれました。多くの方に来場していただき、どの屋台也大盛況。開始1時間で売りきれるところもありました。特設ステージでは歌や踊りに大きな拍手が送られました。在館生同士の交流および留学生と近隣の方々との交流を目的とした秋祭りも今年で9回目を迎え成功裏に終えることができました。

運営の中心となった留学生の皆さん、ボランティアの方々をはじめ、ご協力いただいた関係者の皆様に心から感謝申し上げます。



月刊 アジアの友

2010年12-2011年1月号 第488号

目次

巻頭

2 留学生の就職状況

インタビュー

8 留学生の就活Ⅲ

日本大学 本部学生支援部就職課 課長 石黒岩夫氏

私の意見・私の体験

12 「インド人の日本留学」 シャンカル・シッダルタ ～インド

ご報告

15 第9回 ABK 同友会会議が香港・マカオで開かれました

16 ABK 同窓生募金 訪タイ報告

22 知友会通信 奨学金・イベント情報

26 News & Event

26 MEMBERS ご入会・ご寄付のご報告(2010年10月・11月)

27 ABK 同窓生募金(2010年11月30日現在)

29 募金に関するメール

<表紙写真> 2010ABK 秋祭りのタイチーム
(Photo by Stanford)

留学生の就職状況

「アジア人財資金構想」や「留学生 30 万人計画」など、優秀な留学生に日本で学んでもらい卒業後も長く日本で活躍してもらおうという政府方針の下、ここ数年はそれ以前に比べて在留資格の変更が容易になり、留学生の日本での就職がしやすくなったと言われている。しかし一方で、国内景気は一向に上り上がりせず、企業の新卒採用は冷え込んだままだ。今年 10 月時点における大学生の就職内定率は就職氷河期と言われた 2003 年をも上回り、過去最低となった。当然留学生の就職もこうした国内の景気動向に左右されているものと思われるが、反面アジア各国に生産拠点や市場を求めて進出する製造業、アジア人観光客に活路を見いだす小売り・サービス業が増加するなど、留学生の活躍の場は広がっているとも言える。はたして留学生の就職状況は今どうなっているのか。8月に発表された法務省統計資料から、その実態を見ていくことにする。

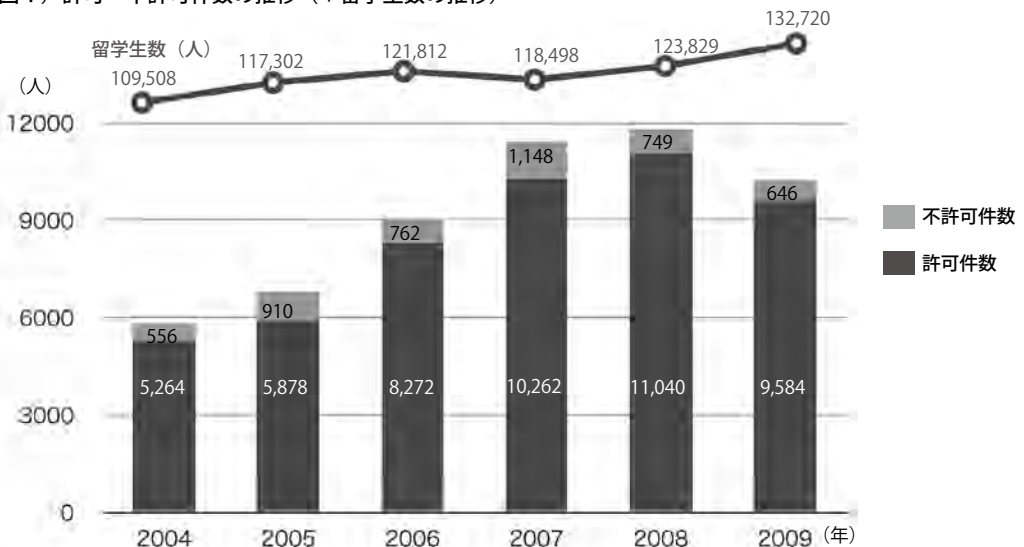
※ 図表は記載がないものについては全て、法務省「平成 21 年における留学生等の日本企業等への就職状況について」より作成

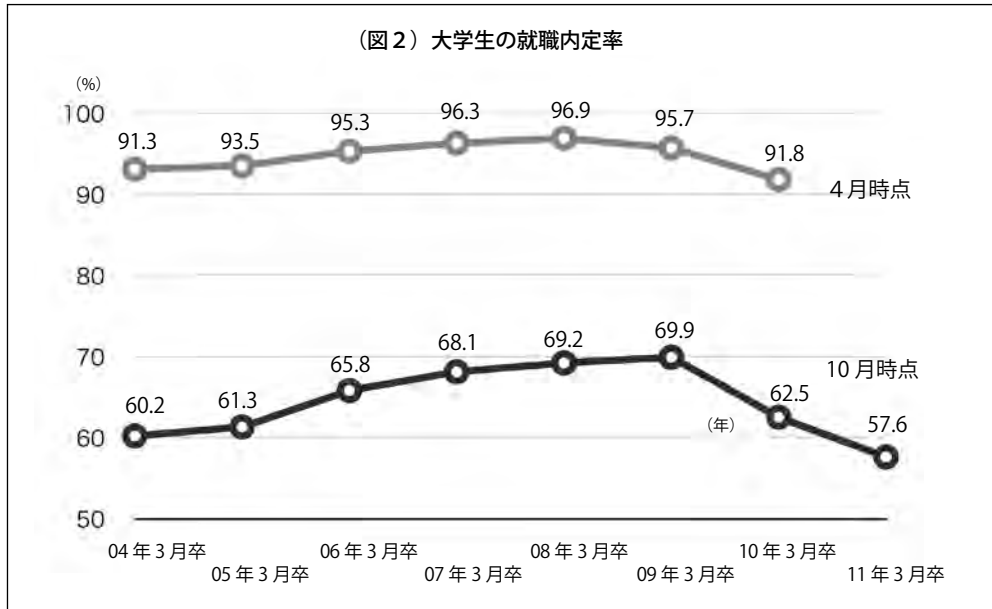
■留学生の就職と資格変更

(表 1) 留学生等からの就職目的の申請数等の推移

	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009
申請件数	3,039	4,132	3,600	4,254	5,820	6,788	9,034	11,410	11,789	10,230
許可件数	2,689	3,581	3,209	3,778	5,264	5,878	8,272	10,262	11,040	9,584
不許可件数	350	551	391	476	556	910	762	1,148	749	646
許可率	88.5%	86.7%	89.1%	88.8%	90.4%	86.6%	91.6%	89.9%	93.6%	93.7%

(図 1) 許可・不許可件数の推移 (+ 留学生数の推移)





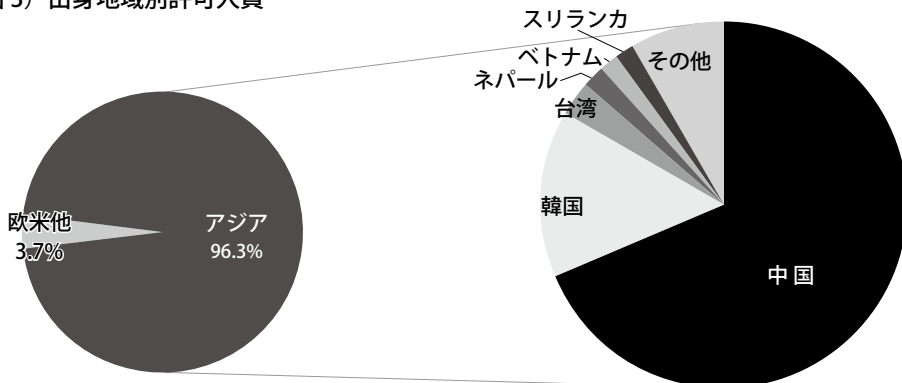
厚生労働省「平成22年度大学等卒業予定者の就職内定状況調査（平成22年10月1日現在）」より

2009年に留学生が日本の企業等に内定して行った在留資格の変更申請件数は10,230件で、前年2008年の11,789件を下回っている（表1）。申請件数は最近6年間ずっと右肩上がりであったが、初めて減少に転じた。参考に日本学生支援機構（JASSO）の統計資料より「日本の留学生数」をグラフで併記（図2）してみたが、2009年度の留学生数は過去最高を記録しており、やはり国内の景気低迷の影響で内定者が減ったということになるだろうか。

（図2）は国内大学生の就職内定率だが、今年2010年4月の内定率は2009年度より大きく落ち込んでいる。留学生のみの就職に関する調査結果が出るのは来年になる予定だが、果たして09年度の結果はどのようなになるだろうか。

■出身地域別許可人員

（図3）出身地域別許可人員



(表2) 国籍・出身地別及び在留資格別許可人員

国（地域）	人数 （人）	割合 （％）	人文知識・ 国際業務	技術	教授	投資・ 経営	研究	教育	その他	合計
中国	6,333	66.1	4,694	1,305	186	64	47	5	32	6,333
韓国	1,368	14.3	956	290	62	36	13	1	10	1,368
台湾	285	3.0	219	49	10	3	3	1		285
ネパール	173	1.8	96	52	9	13	1	2		173
ベトナム	161	1.7	78	62	17		3		1	161
スリランカ	141	1.5	70	59	8	3	1			141
バングラデシュ	125	1.3	55	33	26	4	4	2	1	125
マレーシア	105	1.1	35	66	3		1			105
タイ	101	1.1	58	23	16	1	3			101
インドネシア	97	1.0	41	37	14	1	3		1	97
その他アジア	339	3.3	175	106	47	2	6	2	1	339
ヨーロッパ	165	1.7	105	36	18		2		4	165
北米	94	1.0	63	16	6		1	8		94
中南米	27	0.3	10	6	7		4			27
大洋州	18	0.2	9	3	1		1	2	2	18
アフリカ	49	0.5	11	10	14	1	4	8	1	49
無国籍	3	0.0	2	1						3
合計	9,584	100	6,677	2,154	444	128	97	31	53	9,584

厚生労働省「平成21年における留学生等の日本企業等への就職状況について」より作成

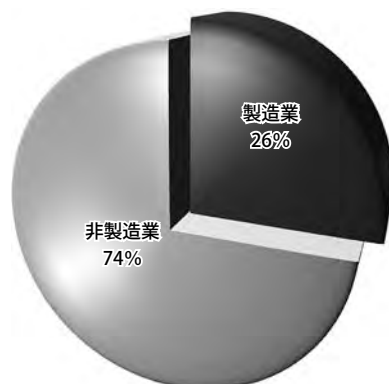
資格変更者の出身国（地域）上位3か国（地域）＝中国、韓国、台湾は国内の留学生数の順位と同様だ（図3）。その割合（83％）は留学生数の割合（78.4％）に比べても高い。

変更後の資格について、上位国（地域）は同じようなバランスとなっているが、若干目立つのはバングラデシュの教授ビザ取得率ではないだろうか（表2）。教授ビザは大学や高等専門学校で、研究、研究指導、教育をするものに与えられる資格だが、公私の機関で研究業務に従事する「研究」、小中学校などで教育活動を行う「教育」を合わせると、同国出身留学生で資格変更をした者のおよそ1/4が留学ビザから教育関連のビザに変更している。

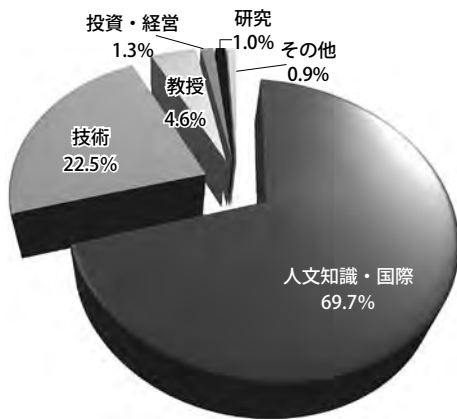
■職務内容別許可人員

許可人員全体の7割以上が非製造業（図4）という中、内定の出た留学生が取得する在留資格で最も多いのが「人文知識・国際業務」で、全資格の7割近くがこの資格への変更となっている（図5）。同資格で申請する業務は、翻訳・通訳、語学指導、広報、宣伝、海外取引業務、服飾デザイン、室内装飾デザイン、商品開発などで、「外国人特有の思考、感受性を有さなければ行えない業務」ということになっている。つまりとらえ方によっては幅広い職種での申請が可能ということになる。次に多いのが「技術」で、こちらは

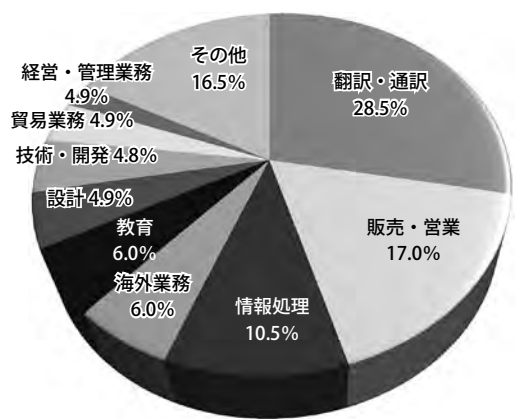
(図4) 業種別許可人員の構成比



(図5) 在留資格別構成比



(図6) 職務内容別構成比



(表3) 在留資格別許可人員

職務内容	許可人員	(構成比)	職務内容	許可人員	(構成比)
翻訳・通訳	2,731	28.5%	経営・管理業務	204	2.1%
販売・営業	1,631	17.0%	調査研究	153	1.6%
情報処理	1,010	10.5%	会計業務	140	1.5%
海外業務	576	6.0%	広報・宣伝	74	0.8%
教育	571	6.0%	国際金融	55	0.6%
設計	473	4.9%	デザイン	51	0.5%
技術開発	458	4.8%	その他	1,104	11.5%
貿易業務	353	3.7%		9,584	100.0%

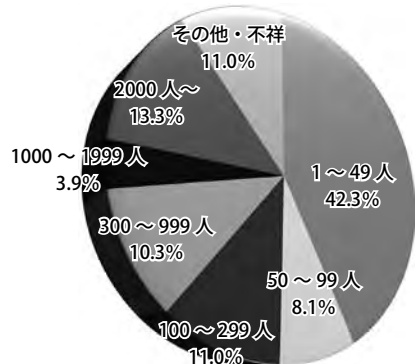
理工系の学生が製造業やIT関連の仕事に就く場合に申請するケースが多く、留学生の変更後の資格は、この二つで全体の9割以上を占めている。

一方で申請のあった職務内容(図6、表3)を見ると、「翻訳・通訳」の第一位は例年と変わらないものの、ここ数年の増加する外国人観光客への対応などから「販売・営業」での申請・取得の割合が増加傾向にある。

■就職先企業の規模

就職先企業の規模については、従業員100人以下の企業に就職をした留学生が5割を超えている(図7)。資本金で見ると、5千万円以下の企業が53%となる(表4)。企業規模に関しては資本金と従業員数が必ずしも比例しているとは言い難いものの、全体の半数以上が中小企業に就職していることになる。一方で、10億円超の大企業に就職している留学生も1,747人(18%)おり、就職先の企業規模は日本人学生同様に幅広いと言えるだろう。

(図7) 従業員数別許可人員の構成比

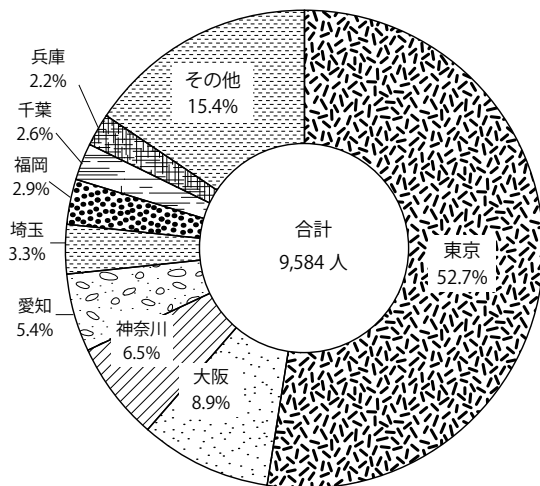


(表4) 資本金別許可人員

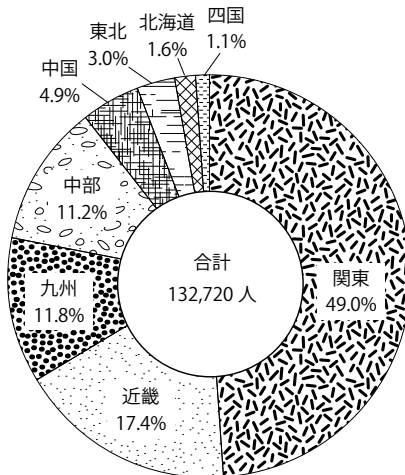
	～500万	5百万超 ～千万	千万超～ 3千万	3千万超 ～5千万	5千万超 ～1億	1億超～ 3億	3億超～ 5億	5億超～ 10億	10億超 ～	その他・ 不明	合計
2006	826	1770	1,125	656	757	464	348	206	1,359	761	8,272
2007	932	2,264	1,363	962	968	541	321	262	1,696	953	10,262
2008	1,183	2,288	1,397	874	1,027	589	411	316	1,918	1037	11,040
2009	1,361	2,048	1,041	608	833	417	319	232	1,747	978	9,584

■就職先企業の所在地

(図8) 就職先企業等の所在地別構成比



(図9) 地方別留学生の構成比



JASSO「平成21年度 外国人留学生在籍状況
調査結果」より作成

就職先企業等の所在地については、東京が5割強を占め、神奈川や埼玉を含めると首都圏の企業等に就職した留学生は65.1%になる。首都圏に就職する留学生が多いのはある程度予想できるものの、大阪と東京の間にこれだけ圧倒的な差があるというのは、少々予想外だったかもしれない。参考に「地方別留学生の構成比」(図9)を掲載したが、地方で学生生活を送った留学生が、就職では首都圏に集まって来ていることがわかる。地方にも留学生の力を必要としている企業は数多くあるはずだが、情報不足等の問題があるのだろうか。それ以前に留学生の東京志向が非常に強いのかも知れない。

■最終学歴から見る許可人数

(表5) 最終学歴別許可人員

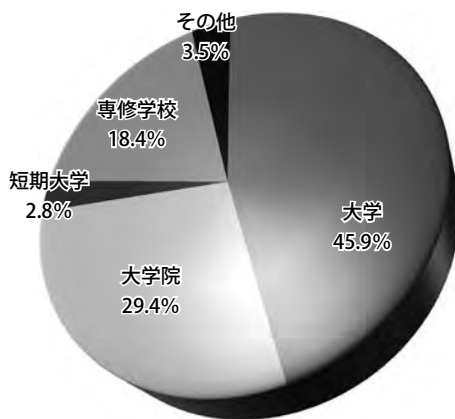
日本での学歴	大学	大学院		短期大学	専修学校	その他	合計
		修士	博士				
許可人員	4,396	2,148	666	267	1,768	339	9,584
		2,814					

学歴別の許可人数は、大学学部が最も多く45.9%、次いで大学院が29.4%、専修学校が18.4%となっている（表5、図10）。

実際に留学生の何パーセントが日本で就職をしているのかということを、「外国人留学生進路状況調査結果」（表6）（本稿執筆時点では最新データが2008年度となってしまうのだが）から見てみることにする。まず学部卒留学生だが、11,793人のうち、日本国内で就職をしたのは3,873人なので、およそ33%が国内で就職をしたことになる。また、大学院卒留学生については修士、博士合わせて9,708人が卒業。このうち国内で就職をしたのは2,735人で、28%が日本で就職をしている。

一方、専修学校（専門学校）の08年度の卒業留学生数は11,711人。このうち日本で就職をした者は1,890人で、その割合はわずか16%でしかない。専修学校に進学する留学生のほとんどが、日本での就職を希望していると言う実情を考えれば、この数字は大変低いものと言えるだろう。

（図10）最終学歴別許可人員の構成比



（表6）平成20年度外国人留学生進路状況

（上段：留学生数（人）／下段：構成比（%））

進路 在学領域	日本国内				出身国（地域）				日本・出身国（地域）以外				小計	不明	卒業（修了） 留学生総数
	就職	進学	その他	計	就職	進学	その他	計	就職	進学	その他	計			
博士課程	872	116	367	1,355	872	14	403	1,089	58	6	21	85	2,329	253	2,582
	28.9	5.0	15.8	49.6	28.9	0.6	17.3	46.8	2.5	0.3	0.9	3.6	100.0		
修士課程	2,063	1,669	797	4,529	914	51	971	1,936	32	37	42	111	6,576	550	7,126
	31.4	25.4	12.1	68.9	13.9	0.8	14.8	29.4	0.5	0.6	0.6	1.7	100.0		
専門職 学位課程	85	16	24	127	75	0	22	97	2	0	0	2	226	29	255
	37.8	8.0	10.6	56.2	33.2	0.0	9.7	42.9	0.9	0.0	0.0	0.9	100.0		
大学（学部）	3,873	2,976	1,597	8,446	574	86	1,825	2,485	19	91	45	155	11,086	707	11,793
	34.9	26.6	14.4	76.2	5.2	0.8	16.5	22.4	0.2	0.8	0.4	1.4	100.0		
短期大学	131	355	81	547	47	8	85	140	4	1	4	9	696	12	708
	18.3	51.0	11.6	78.6	6.5	1.1	12.2	20.1	0.6	0.1	0.6	1.3	100.0		
高等専門学校	4	204	1	209	1	0	7	8	0	0	0	0	217	0	217
	1.8	94.0	0.5	96.3	0.5	0.0	3.2	3.7	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0		
専修学校 （専門課程）	1,890	6,461	1,135	9,486	473	126	1,415	2,014	7	32	11	50	11,550	161	11,711
	16.4	55.9	9.8	82.1	4.1	1.1	12.3	17.4	0.1	0.3	0.1	0.4	100.0		
進修教育課程	18	1,589	16	1,623	57	81	132	250	0	3	2	5	1,678	1	1,679
	1.0	84.6	0.9	86.4	3.0	3.2	7.0	13.3	0.0	0.2	0.1	0.3	100.0		
計	8,735	13,386	3,998	26,122	2,813	346	4,860	8,019	122	170	125	417	34,558	1,713	36,271
	25.3	38.7	11.6	75.6	8.1	1.0	14.1	23.2	0.4	0.5	0.4	1.2	100.0		

（注）1. 構成比は、小計に対する割合である。 2. 「その他」には、卒業（修了）後引き続き就職活動中の者等を含む。 3. 「不明」とは、進路がわからない者をいう。 4. 卒業（修了）留学生総数には、標準修業年限を越えて在学した者を含む。 5. 「博士課程」には、単位取得退学者を含む。

JASSO「平成20年度外国人留学生進路状況調査結果」より

ざっとではあるが、現在の留学生の就職動向について見ていただいた。留学生の受入れ増について、入口・出口戦略ということが盛んに言われているが、国内就職を出口と捉えるのであれば、現在の留学生の就職状況は十分と言うにはには程遠い数字と言えるだろう。

はたして今後、日本の景気回復とともに留学生の採用は進むのか。その動向に注目したい。

インタビュー

留学生の就活 Vol. Ⅲ**日本大学 本部学生支援部就職課****課長 石黒岩夫氏**

今回の「留学生の就活」には、私立大学のご担当者にお話をうかがいたく、日本大学にお邪魔した。日本大学は、14学部83学科を擁する私立最大規模の総合大学で、学部にはおよそ7万人の学生が在籍、留学生も1000人以上（2009年度現在）が学んでいる。

同大学本部就職課の石黒課長に、同校の留学生に対する就職支援、今後の課題等についてお聞かせいただいた。

——— 留学生に対して特別な就職指導は行っているのでしょうか。

大学全体の方針として日本人と留学生を分けて指導するということはありません。また、日大の場合は学部ごとにキャンパスが分かれていますから、就職指導は学部ごとにそれぞれの事情に即した形で行っています。

私は昨年3月まで経済学部就職指導課におりましたので、そこでの経験をもとにお話させていただきます。

まず留学生向けについては、3年生の10月にハローワークの方をお呼びして就活に関するガイダンスを行います、留学生のほとんどはこれに参加しています。また、翌年の

2月に5日間で計約300社近くの企業を招いてのセミナーを行っていますが、参加企業には事前にアンケートを取り、それをもとに留学生枠があるところ、留学生採用の可能性のあるところをリストアップし、そのデータをセミナー当日に留学生に配付し、リストにある企業のブースから訪問するようにアドバイスしています。

さらに4月からは英語や業界事情講座など、就職のための様々なプログラムを開設していますが、これには留学生も数多く参加しています。

また、大学全体行事として10月頃に4年生を対象としたフォローアップセミナーを行う際も、留学生を採用する企業が分かるよう

学生に当日配付する冊子に明記したり、会場案内の掲示を工夫したりしています。

——— 留学生の就職に関してはどのような問題があると思われますか。

例えば理工系の学生はもともと自分の専門と仕事のマッチングをもとに就職先を決めますから、その後の在留資格変更はスムーズですが、文系の学生の場合は仕事内容も幅広いので、専攻と就業内容、母国との関係など、企業がその学生を採用する明確な理由がないと就労資格が取れず、採用が決まったのに帰国しなければならない事例もありました。

そこには「“留学”だから、勉強が終了したら帰国する」という前提があったと思いますが、せっかく採用が決定したのに留学生が泣く泣く帰国する姿をいつまでも見過ごすことは出来ず、東京外国人雇用サービスセンターに資格変更について確認をしたことがありました。その際、最近事情も変わってきており、採用する企業側から「この留学生は他の日本人学生と比較した上で素晴らしいものを持っているので、どうしても我が社で採用したい」という旨の推薦書のようなものを提出してもらえれば、ずいぶん結果は違うということでした。

実際に、内定が出た留学生にそうした指導をするようになってからは、資格変更は以前よりスムーズにいくようになったと思います。

ケースによっては、大学から企業側にそういったお願いをすることもあります。就職が決まっても、大学が知らない間に資格変更

の申請をして却下された、というケースがいまだにあることも確かです。

——— 今年は2003年の就職氷河期を上回る大学生の就職内定率だと言われていますが、実感としてはいかがでしょう。

かなり厳しいことは確かです。昨年も厳しい状況でしたが理工系は比較的良くて、9割ほどは決まっていたから、全体的に大きく落ち込んだ印象はありませんでした。しかし、今年は理工系も悪いです。これまで理工系の場合は教授を通しての推薦もありましたし、メーカーからの求人もありました。しかし今年はまずメーカーの求人数が大きく減少し、推薦枠もかなり少なくなっていまい、土木業界関係なども状況が悪く余計に落ち込んでいるという状況です。

ただ、日大に理工系学部は3学部ありますが、留学生も含めた全員が研究室に所属します。そのため就活についても細かく支援することができます。文科系学部ではゼミがそれに近いものとなりますが、ゼミは必須ではなく約6割の学生は所属していないため、なかなか全体を把握して支援していくのは難しく課題となっています。

——— 留学生の場合、細かく仕事を選ぶために、なかなか決まらないということはあるですか。

例えば日本企業ですが、中国に現地法人があり、そちらでの採用になるといった場合や



法人本部がある日本大学会館（東京・千代田区）

日本でしばらく仕事を覚えてから現地の管理をしてもらいたいといった場合などで、現地に行った際の待遇がローカル扱いになるような求人を学生は嫌がります。

ただ、留学生に限らず、日本人学生も含めて言えば、最近の学生たちが目指すのは「就職」ではありません。職を探す、職に就くというのは、こういう仕事をするためには、どんな会社に入ればいいのかという発想から始まるわけですが、彼らは「仕事」より「会社」を探しているものですから、こうした仕事をするためにこの会社でなきゃ嫌だという部分が多く、そこから先を見ようとしません。そ

れが内定率をさらに悪くしている原因だと思っています。実際に、氷河期に比べたら求人はかなりあります。ですから、自分がやりたいことを前提に中小企業にまで目を向ければ、もっともっといろいろな会社があります。大企業に行くより、自分が好きなことが出来る場所はいくらでもあります。そういった部分にも、もっと学生の目を向けさせるのが私たちの役割だと思っています。

——— 自分はどんなことをしたいのかを中心に、様々な規模の企業に目を向けること。それは留学生でも同じということですね。

基本は同じですが、留学生ということでネックとなる部分もあります。中小企業の中には、留学生の採用に関して消極的な意見を持っている方もいます。つまり彼らはずっと日本にいるわけではない、特に中小企業に関しては自分たちが数年間一所懸命育ててやっと一人前になった、これでがんばって欲しいという時に帰国されてしまうと、全てが無になってしまう、それが怖くてどうしても留学生の採用に積極的になれないということです。

たしかに、今は終身雇用の時代ではありませんし、転職する日本人も多い。また、留学生でも日本人と結婚して、その後ずっと日本に住み続ける方も増えています。しかし、自分が留学したらと考えた場合、ずっと日本に帰国しないかと問われたら、親のこともあるでしょうし、難しいかもしれません。中小企業にとって、この点は大きな問題でもあるわけです。

——— 卒業後、就活のための短期滞在ビザが取得できますが、これを申請する留学生はどのくらいいるのでしょうか。

この制度が出来てからは、私が経済学部在籍していた当方で年間6人ぐらいは必ず希望者がいました。ただし、取得後のフォローについては学部ごとに特色があるので違いがあります。経済学部では、留学生を採用したいと企業から連絡があった時は、既卒で構わないか確認をとって、優先的に連絡するようにしていました。

ただ、最近の若い人は日本人も含めてですが、その後の事後報告がありません。直接紹介した場合は別ですが、自由応募の場合はほとんど連絡が無いというのが現実で、成果をなかなか把握できないというのが実情です。

——— 今後の課題について、どのようにお考えですか。

「留学生30万人計画」を背景に、留学生が卒業後に日本で就職をし、彼らに日本社会で活躍してもらうということを念頭に留学生を受け入れていくのであれば、まず入管（役所）

などの手続きがもっと変わらないといけないと思います。専攻内容に関係するか、仕事が母国と関係があるかどうかに関わりなく、日本に残って働きたいというまじめな留学生が、きちんと企業を選んで内定を得たのなら、その就職を止めなくてもいいのではないかと思います。

まず、そこを変えるだけでも留学生の就職率は大きく変わるのではないのでしょうか。

また、大学としてですが、留学生を増やし彼らの就職をサポートしていくとすれば、専門的な支援を行わなければ厳しいのではないかと思います。現在就職課では一学部5～6名ぐらいのスタッフが、学生数が多い学部では約2000名の4年生、大学全体では約17000名の4年生を支援しているわけですが留学生はそのうちの一部です。

そうすると、留学生の担当者とそれ以外の担当者という区別はなかなかできないわけで、やはり出きることには限りがあります。ですから、例えば留学生専門の担当部署をつくり、内定が出た留学生は必ず担当者がフォローして、採用企業とも連絡を取り合い、資格変更がどうなるのか、なぜその学生を採用したのかといった細かいフォローアップをしていく、そういった体制が整うだけでも成果は違ってくるのではないかと思います。

——— ぜひ留学生の就活がこれまで以上の成果をあげられるよう、更なる支援の枠組み作りをご検討いただければと思います。本日はありがとうございました。



日本大学 商学部（東京・世田谷区）

インド人の日本留学

シャンカル・シッダルタ (Mr.SHANKAR SIDDHARTH)

東京大学 工学部電気電子工学専攻 3 年生 (インド)

予想しなかった日本留学

僕の高校時代の希望は、インドで最も優秀な大学であるインド工科大学 (IITs) で学ぶことでした。だけど試験は二次試験で落ちてしまい、国立大学の提携校である私立大学に進学することになりました。決してレベルの低い大学ではなかったのですが、僕はずっと希望の大学に行けなかったという、落胆した気持ちを引きずったまま、大学1年目の生活を送っていました。

日本政府奨学金のことは、大学の日本語の先生から教えてもらいました。それまでは、留学のことなどまったく考えたことはなかったのですが、日本という技術大国の良い大学で勉強するチャンスがあるのなら、試験を受けてみようと思ったんです。

当時、日本に対する知識と言

うのは、世界第二位の経済大国、たくさんの日本製品から連想する技術力が優れた国、ロボット工学が世界一発展している国…というごく一般的なものでした。また、子供の頃には祖父か



ら日本の真珠湾攻撃の話なども聞いていて、日本人はすごいなあと感じたりしていましたから、日本に対する特別な知識はなくても、決して悪いイメージは持っていませんでした。

ただし、実際に奨学金の試験に合格してみると、僕自身それまで外国に行ったことは無かったので不安でしたし、父や母も僕が遠い日本に行ってしまうことを悩み、色々な人に相談をしていたようです。

そんなスタートの日本留学でしたから、僕は日本人とはどんな人たちなのかわからなかったのですが、来日1年目に僕の中で日本人の印象を決める、ある出来事がありました。

僕は来日後の1年間は東京外国語大学で日本語を学んでいたのですが、同じ大学の寮に住んでいた友人のペルー人が、ある日財布を無くしてしまったんです。もちろん僕は財布が見つかるとは思っていませんでしたが、2日後、その財布が警察から彼らのもとに届けられたんです。インドではそんなことは9割方ありませんから、僕らは本当に驚きました。それがきっかけで、僕の中には「日本人＝誠実」というイ



インドで通っていた大学の仲間と。
2009年春の一時帰国時に再会

2007年夏に参加したJAPAN TENT(石川県)
で他国の留学生たちと



メージができ上がりました。

その出来事はカルチャーショックでもあったのですが、大学でもインドとの違いに驚くことはあります。例えばインドでは教室の中で誰かが寝ていたから先生はすごく怒り、一、二度注意してダメなら教室から出て行かせます。また、授業に遅刻した学生は教室に入れないということもよくありますから、インドの大学では寝ている人も遅刻をする人もほとんど見かけませんでした。

でも東大に入学してみて、ある授業で3割くらいの学生が寝ているのに、先生は親切で注意も何もしない(笑)。その後、専門的な勉強が始まってからは、そうした光景を見ることは減りましたが、初めてそれを見たときは本当にびっくりしました。

もう一つインドと違うのは、試験前の助け合いです。数人がある科目の担当になり、一生懸命勉強して、予想問題をみなに知らせる「シケプリ」をしたり、

授業に出られなかった人のために自分のノートをスキャンしてサイトにアップしたり、学生にとってそれは本当にありがたいです。インドでは試験前に友人同士でディスカッションすることはありますが、親しくない誰かが、みんなのためにそうしたサービスをすることはありません。

僕は今、真面目に集中すれば授業の9割は聞き取れますが、1年生の頃は3割くらいしか聞き取れませんでした。その頃はシケプリの存在を知らなかったのですが、まだ日本語に自信のない留学生にとって、こうした助け合いシステムの存在は、とてもありがたいものだと思います。

今の僕の日本語力は文学部だと難しいと思いますが、工学部では、使う漢字も限られていますから、読み書きは問題なくできていると思います。ただ、今も日本語より英語で勉強するほうが早く、同じ参考書があれば、英語の方を読んでしまいま

す。図書館などでも資料は英語の方が手に入りやすいので、そういった意味では不自由はしていません。

ただレポートは、英語で出すことを許可してくれる先生もいますが、普通は日本語で書かなければなりませんから、日本人の2倍以上時間がかかっていると思います。でもそれは留学生ですから、仕方がないですね。

言葉の問題はまだまだありますが、日々確実に少しずつ無くなってきていると感じています。今は留学前に想像した通りの、満足のいく、質の高い勉強が出来ていると思っています。

日本留学成功の鍵は

言葉の次に問題があったのは、食生活についてでした。僕は牛肉や豚肉を食べないので、そういった食事をするのは日本語がわからない時はとても大変でした。来日したばかりの頃は、先に留学していたインド人の先輩にアドバイスを



東京外国語大学で日本語を学んでいた頃。
他の留学生との国内旅行で

してもらい、「牛」や「豚」という文字だけを覚えて、それが書かれていない食材を探しました。

実はインドで一緒に奨学金の試験を受けた友達がいて、彼は筆記試験には合格したのですが、面接には参加しませんでした。彼も肉を食べないのですが、どこからか「日本では肉を食べないと生活できない」という情報を得て、面接には来なかったそうです。

確かに食生活は初めは大変です。でも日本語ができるようになれば、肉を使わない食事をするのは難しいことはありません。

友達の多くは、僕の日本留学が決まったとき、良い経験になると勧めてくれましたが、中には日本に行って日本語を習い、また最初から工学部の勉強を始めるのは、卒業する歳が2年遅くなるだけで、いいことはない、行くべきではないという人もいました。

彼らは今就活をしているか大学院に進学しているかですが、今僕が彼らに言えるのは、2年間の遅れは無駄ではな

かったということです。日本に来て、日本人はもちろん、様々な国の人と交流するチャンスを持ち、世界のいろいろな知識を得ることができました。そして日本語だけでなく、留学生たちとの交流の中で、英語力もアップしました。ですから就職は遅れるかも知れませんが、より良い仕事を見つかるチャンスは広がったと思います。10年と言う期間で見れば、結果的に2年の遅れはなんの問題にもならない。むしろ成長のための素晴らしい時間だったということです。

インド人が思う日本の魅力

インド人は私費で留学する場合、ほとんどの人がイギリスやアメリカなど、英語圏の国に留学したいと考えます。それは英語で学べるのが大きな理由です。でも僕たちは子供の頃から優れた日本製品に囲まれて育ってきました。電気製品、カメラ、自動車、バイク…、どれも日本の技術力を証明するものばかりです。ですからもし日本が英語で勉強できる国であれば、留学先に日本を選択するインド人はずっと増えると思います。僕

らが思う留学先の国としてのイメージは、決して欧米には負けていません。特に理工系の人には日本はとても魅力的な留学先だと思います。

気候も地域によっての差はありますが、僕の故郷ビハール州と日本の気候はほとんど同じですから、特別問題はありません。何より日本はとても清潔で、気持ち良く生活することができる。アパート探しが難しいなど、外国人特有の問題もありますが、それらは乗り越えられない壁ではありません。

日本語が上達すれば、生活も日本人との交流もどんどんスムーズに行くようになるはずです。ですからインド人の日本留学成功の鍵は、しっかり日本語を身に付ける気持ちがあるかどうか、ということですね。

将来は、日本で大学院まで終えて、その後は日本で就職をして経験を積みたと思っています。ただし今の奨学金は学部で終わるので、その後新しい奨学金が見つかるかどうか心配です。だからこれからアルバイトをして進学のための準備をしていきたいと思っています。

(終)



第9回 ABK 同友会会議が 香港・マカオで開かれました



2010年11月11～14日、第9回 ABK 同友会会議が香港・マカオで開かれました。韓国、香港、タイ、日本から、11名のABK同窓生が参加し、美味しい中国料理や美しい香港・マカオの観光を楽しみました。また、ABKの小木曾さんより、今、ABKが進めている日本語学校の新校舎建設のための募金（ABK同窓生募金）に対し、同友会のメンバーよりすでに多大な寄付が寄せられていることへの謝意が表明され、また、さらに募金の額を増やすためには、どのような方策が可能であるかについて話し合われました。参加者は次の通り（順不同、敬称略）。

Hahn Young Khoo（韓英鳩）、Kennet h Chan（陳驚雄）、Brian C.Y. Chan（陳長鑫）、Virat Thiravathanavong、Phiphat (Suvaree) Chaichanavichakij、Yanase Shuzo（柳瀬修三）、Oshidari Rinki・Mieko（忍足林基・美恵子）、Abe Sogaku（阿部宗嶽）、Tanaka Tamiko（田中多美子）、Ogiso Yu（小木曾友）





ABK 同窓生募金 訪タイ報告

(財)アジア学生文化協会(以後、協会)は、創立50周年記念事業の一環として打出した長期計画のうち、最優先課題である日本語教育部門の学校法人化とそのための校舎建設のため、今年6月、正式にABK同窓生募金を立ち上げ、ご協力をお願いをスタートさせました。タイ国の泰日経済技術振興協会〔TPA: Technology Promotion Association (Thailand-Japan); Sukhumvit Rd. Soi 29〕は、この募金計画に早くから賛同の意向を示され、募金開始早々に80万バーツ(約220万円)のご寄付を寄せて下さいました。更に、この8月下旬に来日されたPrayoon前TPA会長から、「タイABK-AOTS同窓会とTPAは、ABKが目標とする募金額を達成できるよう全面的に協力したい。そのため、チャリティー募金のための催しを数回開催する計画を立てているので、募金に関する説明に来タイして欲しい」との要請があり、10月31日～11月5日の日程で、協会理事長小木曾友と50周年記念事業委員会事務長布施知子が訪タイすることとなりました。以下、訪タイのご報告です。

11月1日(月)

9:00

理事長の意向で、訪タイ時の訪問先等行動を供にさせていただくことになった柳瀬修三氏(在タイ、元当協会職員、TPAへの初代出向者)と宿泊先ホテルで打ち合わせ。

10:00 - 14:00

TPI (TPA 附属技術振興センター; Technology Promotion Institute; Pattanakarn Rd. Soi 18) 訪問。Prayoon 前TPA会長、Chovet元TPA事務局長、ParitudTPA理事兼事務総長、職員浅見博子さん、柳瀬氏、小木曾、布施が会議に参加。TPA



TPIの前で

からの寄付に対する謝意を述べた後、当協会からの募金計画と事業計画についての説明と質疑

(表1) ABK 同窓生募金に関して；小木曾理事長・布施訪タイ日程

期間：2010年10月31日(日)～11月5日(金)

日程		スケジュール
10月31日(日)	14:00 17:30 22:00 23:45	成田集合 成田発 TG-677 バンコク着 Hotelチェックイン；Hotel Windsor Suites Bangkok (Sukhumvit Soi20)
11月1日(月)	9:00 10:00-11:30 11:30-12:30 14:30-15:30 19:00-21:00	Hotelで柳瀬氏と打合せ TPI表敬訪問：(1)説明会と質疑応答(2)見学 昼食(TPI) TPA表敬訪問：(1)説明会と質疑応答(2)事業協力について懇談(3)見学 TPA理事との会合(1)説明会と質疑応答(2)夕食懇談会 (於、The Cottage；Phathanakan Rd. 9)
11月2日(火)	10:00 12:00 15:30-17:30 18:30-21:00	ホテルで訪問客と(寄付) Mr.Supong元TPA会長と懇談、昼食 TPAで作業(会合の準備) 元ABK在館生・ABK日本語学校生等との会合：(1)説明会と質疑応答(2)夕食懇談会(於、CHANDR PHEN REST；RAMA 4 RD)
11月3日(水)	10:00-14:00 14:30 18:00-19:00 19:00-21:00	TNI表敬訪問：(1)説明会と質疑応答(2)事業協力について懇談(3)見学 ホテルで訪問客と(寄付) タイ同窓会表敬訪問：挨拶と懇談(於、同窓会事務所；ITF 13F) 同窓会役員との会合：(1)説明会と質疑応答(2)今後の事業協力(3)夕食懇談会(於、Somboon Rest.；Silom Rd.)
11月4日(木)	10:00 13:00 17:00-19:00 19:00-21:30	ホテルでMr. Suivit元TPA会長と懇談、昼食 ホテルで訪問客と(寄付) TPAで小木曾理事長インタビュー(TPAの企画：ビデオ作成、TPANews Lttter等へ掲載の為) Sucharit専務理事とまとめの会議 TPAで訪問客と 在タイABK関係日本人との会合(1)説明会と寄付のお願い(2)夕食懇談会(於、大上海；Sukhumvit Rd. Soi 24)
11月5日(金)	5:30 8:10 16:00	Hotel発 BKK発 TG-676 成田着



TPI での会議

応答。TPA サイドから ABK 同窓生募金を集めるため、同窓会と TPA が分担して、チャリティー ディナー トーク、チャリティー ゴルフ等の企画を立て、協力をしたい旨の報告がある。それらの協力に対する謝意を伝える。TPI で昼食後、TPI の施設を見学する。特にカリブレーション設備の拡充には目を見張られた。

14:30 - 16:30

TPA 訪問。Wiwut 会長不在のため、Tipawan 事業部長、Chatuporn 校長、吉田先生（当協会より出向）、浅見さん、柳瀬氏、小木曾、布施で会議に入る。TPA からの寄付に対する謝意を述べた後、当協会の募金計画並びに事業計画の説明と質疑応答。その後、TPA 語学事業と協会事業の今後の協力について意見交換を行う。また、日本語の授業見学を行った。

19:00 - 21:00

TPI 近隣のレストラン（於、The Cottage；Phathanakan Rd. 9）で、TPA 理事との会合に出席。理事への募金計画並びに事業計画の説明と質疑応答。Supong 元会長（TNI 理事長）、Krisada 理事（TNI 学長）、Sucharit 専務理事、Pranee 副会長（学術）、Wiwat P. 副会長（特別事業）、Teetitorn 財務理事、Nuengnam 理事（広



TPA での会議

報）、Pichai 理事（運営）、Paritud 理事（事務総長兼任）、浅見さん、柳瀬氏、小木曾、布施が参加。TPA からの寄付に対する謝意を伝えた後、協会の募金計画並びに事業計画の説明と質疑応答。また、今朝の TPI での会議の概略を報告し、今後の TPA の募金協力活動に対する謝意を伝える。

11月2日（火）

ホテルに元 TPA 職員が訪問、寄付をしてゆく。

（Ms. Kornkeo P., Ms. Wannadee O'sorup）

12:00 - 14:00 Supong 氏と懇談、昼食

15:30 - 17:00 TPA で仕事；布施

18:30 - 21:00

元 ABK 在館生、ABK 日本語生等、1960 年代～1990 年代の ABK 関係者計 26 名（名簿は下記掲載）に柳瀬氏、小木曾、布施が参加して募金に関する説明会と協会主催の夕食会を開催（於、Rama IV Rd. Chandr Phen Rest.）。参加者へ寄付に対する謝意を表し、募金計画並びに事業計画の説明と今後友人等に募金活動を広めていただくことへのご協力をお願いをおこなった。久々の再会を祝す同窓生、名刺を交換する同窓生等々名残惜みつつ閉会。200Km も離れたライオン県から駆けつけて



TPA 理事との会議

くれた同窓生にはことのほか感激した。

〈参加者；abc 順〉

Mr. Damrongpon Penprapat, Ms. Gannigar (Boonsing) Koontanakulvong, Mr. Kanchai Techavanvekin, Ms. Kannapat rasmikomain, Ms. Kanokkarn Foochareonyos, Mr. Kitiphath Vongsurakrai, Mr. Mongkol Pianapitham, Mr. Nopporn Luangtana-anan, Ms. Patamavadee (Vongsayanha) Narciso, Mr. Phiphat Chaichanavichi, Ms. Pilaipan Mekaratana, Mr. Pisan Thanatavee, Mr. Potjanart Chitprapassorn, Mr. Prateep Worakunthada, Mr. Prayout Kulsiri, Mr. Santad Srivicharnkul,

Mr. Sirapop Phichairatanaphong, Ms. Sivaporn Sirilatthayakorn, Ms. Suchittra Hunbuncharkit, Mr. Sukij Mahathalaeng, Mr. Tana Tangtrongsakdi, Mr. Virat Thiravathanavong, Mr. Vongchai Kingphakorn, Mr. Worathep Assavakasem, Mr.&Mrs. Weera Puttikulangkura

11月3日(水)

10:00 - 14:00

泰日工業大学(TNI:Thai-Nichi Institute of Technology;1771/1 Pattanakarn Rd.) 訪問。Krisada 学長、Pornanong 副学長、Bandhit 副学長、Penkhae 日本語学部長、高坂先生(当協会から出向)、水谷氏、大久保氏、柳瀬氏、小木曾、布施が会議に参加。当協会から募金計画並びに事業計画の説明と今後の募金協力をお願いをおこなう。また、今年度 TNI から ABK 日本語コースへ2ヶ月間派遣された18名の学生の評価が高かったこと、今後も学生の派遣を継続したい旨の報告を受けると同時に、TNI と協会の今後の協力関係について意見交換したのち、ビジネス日本語クラスの授業見学をおこなう。



TNI での会議



TNI でビジネス日本語クラスを見学



タイ同窓会理事との会議

近隣のレストランで昼食後、新築のC棟を見学する。実習設備が予想を超え充実していた。日系企業から寄贈された最新の素晴らしい機材も目についた。

15:00

ホテルに来客。寄付を持参。

(Ms. Patamavadee N., Ms. Sumalee S.)

18:00 - 18:40

タイ同窓会事務所訪問 (ITF ビル 13F)。Pimpilai 同窓会会長に挨拶、新理事との名刺交換後、最近の活動について話を伺い、かつ今後の活動協力に関する意見交換を行う。



元在館生・日本語生等、説明会には大勢の懐かしい顔が遠方からも駆けつけてくれた

19:00 - 21:00

タイ同窓会理事との夕食懇談会 (於、Somboon Rest.; Silom Rd.). 当初事務所で行う予定の ABK 同窓生募金の説明会と事業計画の説明を。参加者は Pimpilai 会長、Maliwan 事務総長、Sasipim 会計理事、Mrs. Anongphat 副会長、Tanan 副会長、Somsri 副会長、事務局員 1 名、柳瀬氏、小木曾、布施が参加。募金に関する質疑応答と同窓会から、来年、ABK 募金のため

チャリティー カルチャー イベントを企画しているとの報告を受ける。小木曾が今後の募金協力に対する謝意を伝える。また、11月23日 - 26日、タイ国、パタヤで開催されるタイ同窓会主催の AOTS の第9回 FOSAAS へ招待される。

11月4日 (木)

10:00 - 13:00

ホテルで Suivit 元 TPA 会長と懇談、昼食。募金計画並びに事業計画の説明と訪タイ後の報告を。また、寄付のお礼と、今後のイベント開催



等の協力に対する謝意を伝える。

13:00 ホテルに來客。(Ms.Navarat S.)

17:00 - 19:00

TPAにて、TPAのニュースレターに掲載する小木曾のインタビューが行われた。記事と同時に、ABK同窓生募金の為のビデオ作製の為、同時にビデオ撮影も行われた。(Patcharin 広報部長他担当職員2名、浅見さん)

Sucharit 専務理事と今回のタイ訪問に関するまとめの会を持つ。

TPAで、Vilai T.と会い、寄付のお願いをする。

19:30 - 21:30

スクンビット ソイ24の大上海に於いて、在タイABK関係日本人との会合に出席。参加者は、柳瀬修三氏(元ABK寮生)、新宅光氏(元新星寮生・TPAアドバイザー)、折笠文雄氏(元新星寮生)、川上剛氏(元ABK寮生)、小野崎忠氏(元蒼生寮生)、浅見博子さん、吉田菜穂子先生、Prayoon 前TPA会長(ゲスト)、小木曾、布施。募金計画並びに事業計画の説明と募金協力をお願いをする。タイ事情に精通して皆様から昨今のタイ情勢について伺う。



在タイ ABK 関係日本人との会合

短期間の駆け足のタイ訪問でしたが、改めてタイの人たちの温かさに触れた。8月の末に來日した Prayoon 前 TPA 会長から、タイ同窓会と TPA が合同会議を開き、ABK 同窓生募金のためにチャリティー ゴルフ、チャリティー ディナー トーク、チャリティー カルチャー ナイト等を企画しているということを伺ったときには、大変驚いた。しかし、タイで皆さんと会合を重ねる度に、TPA、タイ同窓会をはじめ、我々の募金のため一肌脱ごうとしている関係者の皆様に、言葉では表せないほどの感謝の気持ちと同時に、協会は、こうした同窓生たちの期待に沿える仕事を目指さねばと、背筋が正される。

募金は、若いころお世話になったという ABK に対する感謝の気持ちと同時に、今後の協会活動に対する期待でもある。訪タイ中、わざわざホテルまで寄付を届けてくれた人、会合に寄付を持参して来てくれた人、その後も來日の限られた時間を工面して ABK まで寄付を届けてくれた人等々、本当にありがとうございます。

(記：布施)



ABK の未来のために“乾杯”



しょうがくきんじょうほう 奨学金情報

■ のむらざいだんがいこくじんりゅうがくせいしょうがくせいど 野村財団外国人留学生奨学制度

対象: ① 2011年4月1日現在で、下記の指定大学の修士・博士課程に在籍し、人文科学の修学を目的とする留学生②国費留学生および月額5万円を超える他の奨学金を受けている者は除く

③応募時の年齢 35歳まで

指定大学: 東京大学・一橋大学・京都大学・大阪大学・慶応義塾大学・早稲田大学

給付金額: 月額 15万円

給付期間: 2年間

新規採用: 10名程度

募集期間: 1月25日(火) (必着)

応募: 必要書類を財団事務局まで郵送(持ち込み不可)。必要書類は下記 Web サイトからダウンロード、または指定大学の担当窓口に請求)

連絡先: 〒103-8011 東京都中央区日本橋1-9-1 公益財団法人 野村財団

☎ 03-3271-2330

URL : <http://www.nomurafoundation.or.jp/>

■ おかもとこくさいしょうがくこうりゅうざいだん 岡本国際奨学交流財団

対象: 2011年4月1日時点で ①千葉県内の大学に在籍、または千葉県内在住で近隣都県の大学に通う私費留学生 ②学部4年生か大学院生(4月に進学確定の場合、研究生も応募可) ③他の奨学金(学部生 50000円、大学院生 70000円以上)の併給不可

④夫婦のどちらかが国費留学生、母国政府・機関派遣生または日本国内で就職している場合は応募できない ⑤財団の月例会に毎回出席し、財団行事や地域交流活動にも参加できる者

給付金額: 月額 8万円

給付期間: 2011年4月から2012年3月までの12か月間

採用人数: 20名以内

応募: 本人が直接申込む。申請書は財団のホームページからダウンロード可

募集締切: 1月31日(月) 17:00 締切(必着)

連絡先: 263-0023 千葉市稲毛区緑町 1-19-

11 ☎ 043-248-8808

e-mail : osf-midori1911@coda.ocn.ne.jp

URL <http://www.osf-family.com/>

E-mail kif-info@kyoritsugroup.co.jp

■市原国際奨学財団

対象：①愛知県内の大学の学部、大学院に正

規生として在籍する留学生 ②他団体からの奨学金を受けていないもの

給付金額：月額5万円

給付期間：2011年4月より1年間（多年度

にわたる更新も可）

応募：大学推薦。2月10日締切

新規採用：35名

問合せ先：所属大学の担当窓口

主催団体連絡先：〒453-084 名古屋市中村区

鴨付町1-22 大一美術館内事務局

☎052-413-6777

URL <http://www.ichihara-isf.or.jp/>

■ 共立国際交流奨学財団奨学金

対象：①アジア諸国（大韓民国、中華人民共

和国、台湾、香港、モンゴル、ベトナム、ラ

オス、カンボジア、タイ、ミャンマー、マレ

ーシア、シンガポール、インドネシア、フィ

リピン、インド、スリランカ、パキスタン、

バングラデシュ、ネパール、ブータン、東テ

ィモール、ブルネイ、モルディブ）の国籍を

持つ私費留学生

給付金額：月額10万円

給付期間：2年間

新規採用：15名（うち3名現地（大韓民国）

採用）

募集締切：1月31日（月）（消印有効）

応募：財団奨学金対象校である学校を通して

応募する。奨学金対象校かどうかは財団ホー

ムページで確認可。留学生の個人応募は受付不可。

主催団体：一般財団法人 共立国際交流奨学財

団 〒101-0021 東京都千代田区神田2-18-

8 ☎03-5295-0205

URL：<http://www.kif-org.com/activity/scholarship.html>

■ 共立メンテナンス奨学基金

対象：アジア諸国の国籍を持つ私費留学生

給付金額：月額6万円

給付期間：1年間

新規採用：25名（うち3名現地（ベトナム）

採用）

募集締切：1月31日（月）（消印有効）

応募：財団奨学金対象校である学校を通して

応募する。奨学金対象校かどうかは財団ホー

ムページで確認可。留学生の個人応募は受付不可。

主催団体：一般財団法人 共立国際交流奨学財

団 〒101-0021 東京都千代田区神田2-18-

☎03-5295-0205

URL：<http://www.kif-org.com/activity/scholarship.html>

じょうほう イベント情報

りゅうがくせいしゅうしょく かいさいあんない IFSA 留学生就職フォーラム開催案内

<内容> 留学生を積極的に採用する優良企業が多数参加する、合同企業説明会です。

かいしゃせつめい かんたん めんせつ きぎょう いちぶ
会社説明や、簡単な面接をする企業も一部あります。

<対象> 2011年夏～2012年3月卒業予定の外国人留学生

<申込み> ホームページ上の登録フォームから申込み → <http://www.ifsajp>

<主催> 特定非営利活動法人 国際留学生協会 (IFSA)

とうきょうとちよだくにほんちよう こうじまち
東京都千代田区二番町 9-10 タワー麹町 4 F ☎ 03-3239-0663

だい かい とうきょう 【第2回 東京フォーラム】

<日時> 2011年2月25日(金) 13:00～18:00

<会場> 北とぴあ「展示ホール」

<交通> とうきょう なんぽくせん おうじえき ぼんでぐちよつつけつ けいひんとうほくせん おうじ えききたぐちとほ ふん
東京メトロ南北線「王子駅」5番出口直結、JR 京浜東北線「王子」駅北口徒歩1分

だい かい おおさか 【第1回 大阪フォーラム】

<日時> 2011年3月4日(金) 13:00～18:00

<会場> おおさかこくさいこうりゅう だいかいぎしつ
大阪国際交流センター「大会議室」

<交通> ちかてつ たにまちきゅうちようめ えきとほ ふん きんてつ おおさかうえほんまち えきとほ ふん
地下鉄「谷町九丁目」駅徒歩7分、近鉄「大阪上本町」駅徒歩5分

だい かい こうりゅう はる さんかしやぼしゅう あんない 【第29回 からいも交流・春】参加者募集のご案内

からいも交流とは・・鹿児島や宮崎の普通の家庭で、2週間、家族として生活するホームステープログラムのことです。交流期間中は、家族や地域の人々との交流や、学校訪問、労働体験等を通じて、家族の一員になっていきます。「からいも交流」は、皆さんが家族の一員となってホストファミリーの仕事を手伝ったり、生活をともにする中で、観光旅行では得られない、本当の相互理解をし、生涯の友人を作る手助けをします。

<交流期間> 2011年3月13日(日)～3月27日(日)

<申込締切> 2011年1月23日(金) 必着

<定員> 65名(希望者多数の場合、参加をお断りすることがあります)

<参加対象> 日本国内の大学・専門学校・日本語学校等に在籍する18歳以上の学生である程

度日本語が話せる人

<内容> 鹿児島・宮崎の家庭での、2週間のホームステープログラム

<目的> 日本の地方の日常生活を体験し、生活や作業を共にする中で、国際相互理解を深める。

<問合せ> NPO 法人 からいも 交流

〒 899-4501 鹿児島県霧島市福山町福山 5290-66 ☎ 0995-64-7751 Fax 0995-64-

7752 URL <http://www5.synapse.ne.jp/karaimo/index.html>

「第19回 留学生冬のスポーツフェア」

<内容> 初めてスキーやスノボをやる方から中級程度の方まで、長野県のスキー指導員が親切に指導します。日本人学生や地元の青年と、楽しい国際交流も行います。

<実施日> 2011年2月23日(水)～2月26日(土) 3泊4日

<参加費> 29,500円(朝・昼・夕食、スクール代、リフト代、交流パーティー代、交通費含む)

<申込> ホームページ上の登録フォームから申込み → <http://www.fsea.gr.jp>

<募集人数> 90人

<主催> 特定非営利活動法人 留学生スポーツ交流協会

東京都中央区日本橋浜町 2-60-2 パークサイド日本橋 204 ☎ 03-3663-5707

「外国人留学生のための合同企業説明会」

<内容> 外国人留学生を積極採用する企業・60社が大阪に集結。日本最大級の規模を誇る外国人留学生向け合同企業説明会です。

<日時> 2011年1月15日(土) 10:00～17:00(最終受付 17:00)

<場所> マイドームおおさか 1階 (大阪市中央区本町橋 2-5 / 中央線および堺筋線の「堺筋本町」駅の1、12番出口から徒歩7分)

<対象者> 日本企業(外資系を含む)に就職を希望する外国人留学生・既卒者。2011年、2012年3月卒業予定、既卒の外国人大学生、専門学校生

<主催> 大阪府、財団法人大阪労働協会、株式会社パソナ他

<問合せ先> 大阪府外国人ジョブサポート業務 E-mail: g-rookies@grs-project.jp

URL <http://www.grs-project.jp>

News & Event

「第 1 回ベトナム検定」、「第 1 回インドネシア検定」 「第 2 回タイ検定」のご案内

世界遺産・史跡・観光名所・祭り・イベント・娯楽・文化・地理・自然・政治・経済・日常生活・ことば・・・等、皆様ごひいきの国に関する知識を試すご当地検定です。合格者には合格認定証を発行します。

- 実施日 2011 年 3 月 12 日（土）
- 申込み期間 2010 年 11 月 15 日（月）～ 2011 年 2 月 20 日（日）
- 受験料 3 級 3,800 円 2 級 4,800 円（タイ検定のみ）
- 実施エリア 東京・大阪・名古屋・福岡
- 主催／お問合せ ASEAN 検定事務局（株式会社リクルート内） E-mail info@asean-kentei.com
- ☎ 0120-536-834（フリーダイヤル）

「アジアの留学生と交流する会 2011 年新年会」のご案内

メインアトラクションとして、“民族衣装を着てみまショー”を予定しています。お楽しみに！
また、お国の民族衣装をお持ちの方、当日 持参ください。お願いします。

- 実施日 2011 年 1 月 9 日（日） 13：30～17：00
 - 受験料 留（就）学生 200 円、日本人 1000 円、外国籍の方・日本人学生 500 円、小学生以下無料
 - 場所 新座市東北コミュニティセンター 3 階
 - 主催／お問合せ アジアの留学生と交流する会 E-mail asianst1234@mail.goo.ne.jp
- URL <http://www.geocities.jp/asianogakusei/index.htm>

MEMBERS

〈ご入会とご寄付の報告〉

2010 年 10 月

賛助会員

石川 毅／優子 北区

正会員

（1 口）
樋口 敏子 佐倉市

佐藤 和江
小野里 光博

ご寄付

深澤 のぞみ 金沢市

2010 年 11 月

賛助会員

近藤 壮一／みつ子 清瀬市

正会員

日野市
文京区

（1 口）

中島 明彦／絢子 横須賀市
福井 道子 豊橋市
二村 美朝子 練馬区

ご寄付

栗原 静子 気仙沼市
近田 研 愛知郡
山口 憲明 日野市

* 前号（487 号）MEMBERS（2010 年 9 月分）で記載漏れがありました。お詫びして次の通り訂正いたします。
特別会員（5 口）（株）スリーエーネットワーク 千代田区、（財）海外技術者研修協会 足立区



A B K同窓生募金 (2010年11月30日現在)



ご協力ありがとうございました。募金のご報告は『アジアの友』並びに同窓会ホームページで随時ご報告させていただきます。

●目標額：5,000万円

●募金額：8,935,262円

●寄付者数：166件

〈 〉内は出身・在住国、地域、ABC 順。日本のみ五十音順

〈バングラデシュ〉A.K.M. Moazzem Hussain

〈中国〉張素華、郭南燕、呂新一、蔡堅平、李春利

〈香港〉梁志瞬

〈インド〉ABK-AOTS Dosokai Chennai Center

〈日本〉井上恵子、小木曾建、奥山節子、小野寺武夫、加倉井弘之、北山文泰、佐藤正文、佐藤玲、高道俊彦、田中多美子、広中軍二（李軍；中国）、山口憲明、50周年委員会売上

〈パキスタン〉A.R.Siddiqi、

〈シンガポール〉顔尚強、王堯其

〈タイ〉Chamlong Srimuang、Chovet Yimsirikul、Ditdi Chatputtongul、Gannnigar Koontanakulvong、Kornkeo Praisontarangkul、Navarat Srisuponvanit、Niramai Thanatavee、Pilaipan Mekaratana、Pisan Thanatavee、Sathida Mekaratana、Chanintorn Mekaratana、Pholchai Limviphuvadh、新宅光、Sucharit Koontanakulvong、Suchittra Hunbuncharkit、Vachiranee Limviphuvadh、Vachiraporn Limviphuvadh、Yoshiko Limviphuvadh、Wannadee O'sorup

〈ベトナム〉Tran Thanh Viet

以上、44件

2010年9月30日以前の寄付者(122件)

〈バングラデシュ〉橋本イスラム・ヌルール

〈中国〉全浩、Meng Xiao Xiao、Zhou Xiang

〈香港〉YEUNG KING HONG 楊經航 / 蔡金燕 (Mrs. マレーシア)

〈インド〉Abul Sharah、Ashok Saraf

〈インドネシア〉Budhi Setiawan Kohar

〈日本〉新井重光、石井信彦、植田泰史、大久保伸枝、小木曾建、小木曾友、忍足林基（林林基；カンボジア） / 美恵子、川上剛、北川泰弘、工藤正司、工藤幹雄、久保哲也、栗原静子、小林泰子、

金野隆光、清水勇治・泰代、高木柱子、高野靖子、高橋喜久江、高橋作太郎、田川明子、田口昌子、竹林惟允、田中美智子、田守智恵子、鶴尾能子、鵜田純一・由美、堤祐子、外山経子(2)、中曽根信、西原彰一、西本梶、樋川好美、平井まりこ、平岡明子、藤原一枝、細川哲士、堀幸夫、堀内智代子、松岡弘、吉田菜穂子、六文会、匿名希望(2名)

〈マレーシア〉Ang Wan Leng、Beh Teck Chuan、CHANG CHEW CHIN 張昭成、CHEW CHONG SENG 周昌盛、CHIA LITECK 謝礼得、CHONG TECK FOO 張德福、EE LEY TIONG 余励忠、FOO MING LIAN 符明蓮、FOO SIANG SENG 符祥盛、FOO SOO KONG 符素光、HEONG SEE YONG 香世運、KENNETH WONG 黃復翔、LEE KIAN LING 李建霖、LEE MIOW YING 李妙英、Lee Tee Boon、LEONG KEE HUO 梁其和、LIEW TECK BOON 劉德文、LIM SIN YEAN 林欣燕、LOKE HON YEE 陸漢宇、LOW KIM LEE 劉金莉、NG TIAN ENG 黃殿英、ONG CHENG CHUAN 王清川、ONG CHOOI LEE 王翠莉、PANG CHOON BOON 彭俊文、POH SIEW HUI 傅秀慧、Seah Boon Chieng、SIM KEE HONG 沈其豐、Soon Sai Kheng、SOO SECK HENG 蘇錫興、SU KUI SHENG 蘇桂昇、Tan Cheet Yong、TAN KEEHANG 陳繼漢、TAN SOO SIN 陳素芯、Tan Wee Pin、Tan Wee Seng、TANG ENG HUAT 陳永堯、TENG KIM YIN 鄧錦雲、TEO KWEE SWEE 張貴水、Toh Leong Chee、WONG FEE PING 黃慧萍、WONG SENG KENG 黃成耕、WONG TZONG CHYANG 黃宗強

〈ペルー〉Olga Shimada Keiko

〈シンガポール〉Foo Choo Wei

〈台湾〉Liu Li Mei

〈タイ〉浅見博子、Krisada Visavateeranon、Meena Thamchaipenet、Patamavadee (Bongsayan) Narushiso、Phiphat Chaichanavichakij、Pilaipan Mekaratana、Prayoon Shiowatana、Saowanee Patrakarn、Sivaporn Sirilatthayakorn、Suchittra Hunbuncharkit、Supong Chayutsahakij、Suvit Vibulsresth、Tana Tangtrongsakdi、泰日經濟技術振興協会、Virat Thiravathanavong、Wiwut Tanthapanichakoon、柳瀬修三

〈ベトナム〉Dao Thi Minh、Le Quynh Chi、To Buu Luong

(以上、73件)

次の方々は、来日時お忙しい時間を調整し、ご寄付(ABK同窓生基金)を届けてくださいました。
改めてお礼申し上げます。

2010/8/23	Mr. 全洪(中国)
2010/8/24	Mr. Prayoon Shiowatana(タイ)
2010/9/3	Ms. Saowanee Patrakarn(タイ)
2010/10/8	Mrs. Vachiraporn Limvipuvadh(タイ)
2010/11/16	Mr. 顔尚強(シンガポール)
2010/11/25	Ms. Suchittra Hunbuncharkit(タイ)

募金に関するメール

*氏名(在住国・地域) <メールの日付>

2010/6/3 魏慶鼎 (中国)

Dear Mr.Ogiso,

It is my great pleasure to receive your email. I will support strongly the event you prompted. Best regards,

2010/10/1 郭南燕 (中国)

小木曾友さま、私は今、京都におります。日本語教育には携わっていませんが、文部省の大学共同利用機関人間文化研究機構の一つである国際日本文化研究センターに勤務しております。海外の日本文化の研究を促進するための仕事をしています。これはHPです。<http://www.nichibun.ac.jp/> 私は何年間もABKの皆様にも助けられて、豊かな留学経験を積み重ねてきました。ささやかな恩返しができる、といつも思っております。東京へ行くことができましたら、必ずご連絡いたします。

2010/10/2 A.K.M. Moazzem Hussain (バングラデシュ、Honorary Adviser to AOTS Activities in Bangladesh)

Dear Mr. Yu Ogiso and Mr. Masashi Kudo, Thank you very much for your kind e-mail of 30th September regarding the ABK alumni fund. It is indeed an excellent effort by yourselves for the survival of ABK and its Japanese Language Institute during the years to come. Remembering Late Hozumi-Sensei and in response to your noble initiative, my wife & I will make a humble donation to the fund during our next visit to Japan by March 2011. I shall also pass on your information to other ABK-related persons in Bangladesh.

Wishing you good health and success in your mission.

2010/10/2 YEUNG KING HONG (香港)

メッセージありがとうございます。うちの家族は小木曾さんをはじめ、ABKの先生と職員たちのおかげで今日があるわけで、感謝の気持ちがいっぱいです。実は友人の教え子が今ABKの学生で、昨日会いにいきました。18年前と比べ、周りが大分変わりましたが、ABKはほとんど昔のままで、ABKのロビーに入るとほんとにほっとします。今後ともお手伝いがあれば、ご遠慮なく連絡してください。「ABK Alumni Fund」のこともABK関係の友人に連絡しています。はやく目標が達成するように祈ります。今後ともよろしく願います。

2010/10/7 Itti R. (タイ)

小木曾さん、タイのイッティです。大変ご無沙汰しております。お返事、大変遅くなり申し訳ございません。ご連絡の件、ほんのわずかながら、ご協力をさせていただきます。「次の50年」事業が皆の精神と力で成功することを祈っております。私もあと10年くらいしたら、また東京近辺にいますので、今後ともよろしく願います。以上。

2010/10/7 Polachai L.(タイ)

小木曾様 ご無沙汰致しております。ポンチャイです。標題の件、娘が明日(10月8日)午後2時頃お邪魔し、募金をさせて頂きたく、ご連絡申し上げます。ご多忙のところお手数をおかけしますが、宜しく願い申し上げます。ポンチャイ拝

2010/10/19 Polachai L.

小木曾様 メールありがとうございました。娘夫婦が突然お邪魔し、ご多忙のところ小木曾さんはじめ佃さん、布施さんに貴重なお時間をさいいただきましてありがとうございました。娘も皆様にお会いでき、大変感動しておりました。心から厚くお礼申し上げます。娘たちは小さい子供のころより ABK の皆様には大変かわいがって頂きました。多くの方々に愛され、娘たちは元気でやさしい子に育ちました。重ねて御礼申し上げます。つきましては、ご依頼の件、添付いたしましたので何卒宜しくお取り計らい下さいますようお願い申し上げます。小木曾さんタイにお出かけの際は必ずご連絡下さい。お待ちいたしております。佃さん、布施さんにもくれぐれも宜しくお伝えください。いろいろありがとうございました。ポンチャイ拝

2010/10/13 Ong Huat Kee (シンガポール)

Dear. Ogiso san, Warm greetings to you. I have received and noted your email for which I thank you. It has been a long time we did not communicate with each other. Hope things are fine with you and also all our mutual friends in ABK. Re ABK Alumni Fund, I would arrange to send in couple of days time a remittance of Japanese Yen 50,000 being a small contribution to the pool and hope you will kindly accept my little token. Meanwhile, I wish you all the best and continued progress of ABK for the next decades ahead. My best regards to your missus and all in ABK. PS Ogiso san, can you please advise details of ABK's Bank account number, Swift code and address. Thanks.

2010/10/18 Sucharit K. (タイ、TPA 専務理事)

Dear Mr. Ogiso and Ms. Fuse, We had received your draft itinerary and I contacted A. Krissada and Ms. Pimpilai and agreed as follows: 1) A. Prayoon will meet with ABK team on Monday morning as scheduled, 2) We will call the working group of TPA on Monday late afternoon for project explanation and have dinner together, if there is any case(s) about Japanese school issue, we will organize meeting seperatedly, 3) A. Krisada (TNI) will host ABK group in the morning of Nov 2 and have dinner together. Also If there is other issue on collaboration, A. Krisada will organize such meeting in the morning also. 4) K. Pimpilai agreed to have meeting at ABK office on late evening on Nov 3 and have dinner together, 5) On Nov 4, at the moment we are thinking to summarize what have been discussed (a kind of matomeru kai). 6) If you have any request or idea, we can discuss at BD tomorrow evening. 7) If we can prepare the meeting agenda, we may prepare people in charge more properly. At the moment, we will go on as summarized. Best Regards,

2010/10/21 MYO THAN KYAW(ミャンマー、イギリス在住)

Dear Mr. Ogiso, I am Dr Myo Than Kyaw from UK(Dr Aung Kyaw's son) and we have met about nearly 12 years ago when I was visiting Japan. I remember you kindly giving me a traditional Japanese lunch and offered me to send me on a tour of Disney land which I refused and regret to this day. I have seen pictures of my parents in Tokyo Disney land

when they last visited Japan for the MAJA AGM. My father has expressed his wish to contribute a donation of 50,000 yen to ABK after your request. I went to my bank and they said in order to arrange bank to bank transfer I would need SWIFT Code or IBAND in addition to the information on the brochure. As such I have made a bank draft of 50,000 yen to the bank specified in your brochure but would need a mailing address to send the draft. Could I send the draft to you and would appreciate if you could let me know your mailing address so that I can send the draft in a registered mail. I would like to send the draft to you personally and would appreciate if you could acknowledge safe receipt in future as well. many thanks and hope to hear from you soon. Best wishes,

2010/10/31 MYO THAN KYAW

Dear Mr Ogiso, I sent the bank draft with registered mail last week or may be 2 weeks ago and can you acknowledge the receipt of it as I want to tell my father when you have received that. I am not in Burma or Myanmar as it called nowadays as I have been a resident of UK for the last 10 or more years. I left my homeland the same year I visited Japan and now lives in Wales of UK and is working as an Old Age psychiatrist. May be I will re visit Japan for a holiday in future to look at the new building of ABK. I am sure my father has a lot of fond memories of ABK and that is the reason he wishes to donate the money.

2010/11/2 S. Singaravelu (インド)

Dear Sriram San, This has reference to the

donation to the ABK Alumni Fund, kindly donate money equivalent to Rs. 50,000/- in favour of our centre. We are also attaching herewith the appeal received from ABK for your kind perusal. Thanking You, yours sincerely,

2010/11/8 C.Sriram (インド、在日)

Dear Ranga san, Today the remittance was made to ABK. I also called Fuse san and informed her. She thanked our center for the support. Regards,

2010/11/8 C. Sriram

Dear Ranga san, As discussed with you this morning I will transfer 100,000 JPY to ABK. The current rate is approx 100 JPY = 54 Rs. So the amount will come around 54,000 INR. Regards,

2010/11/9 S.Sivakumar (インド)

Dear Sriram, Thank you very much for the information. I am delighted to be a part of our Dosokai contribution to ABK Alumni fund. It is my hearty and sincere wish that ABK and ABK Dosokai to grow well for the development of younger generation. By the way, Fuse san was my coordinator, when I underwent ABK scholarship in 1978. I will never forget all the assistance she rendered to me then. If you happen to meet her again, kindly convey my regards and wishes. If there is e-mail id for her kindly forward it to me. Wish you all the best in all your endeavour and take care.

2010/11/9 C. Sriram

Dear Sivakumar san, Thank you very much for your mail and wishes. We will continue to do our best.

I will convey your message to Fuse san. I will check her mail ID and send it to you. Regards,

2010/11/12 Dr. Aung Kyaw (ミャンマー)

Dear Mr. Ogiso, Thank you for your kind e-mail to our son in U.K. We are happy to know that he has sent Yen 50,000 to my beloved home in Tokyo, namely Ajia Bunka Kaikan. Also I thank you for kindly remembering me. The memories of Ajia Bunka Kaikan and the beautiful days we spent together in ABK and our beloved mentor Hozumi Sensei came back to my mind. We also very much regret the untimely demise of your devoted wife and we respect you for your dedication to her memories all the time. With kind regards, Your old friend,

2010/11/15 Akiko Hironaka (中国)

はーろう、先生こんにちは。facebook 承認ありがとうございます。実は私はABK1989年の卒業生李軍の奥さんです。弟もABKの卒業生です。ABKの大～大ファンなので、機会があればぜひ先生のお話を伺いたいと思っています。ちなみに今年ももう一人のまじめな中国常熟からの鄭という学生をご紹介します。宜しく願います。With best wishes, as always.

2010/11/22 Gannigar K.(タイ)

布施様 タベ、ある PARTY で知人に偶然会って、ABK 募金のことを話したところ、10,000 円を預けられました。布施さんに渡す方法を考えています。誰がバンコクに渡せる人はいますか？それから、ABK からのお礼の FAX か E-MAIL を彼に送ってほしいと思います。その時、もう一度、その募金の説明書

も送ってください。彼からも他の人々にも呼びかけてもらう時に必要だと思います。

以下は彼の連絡先です。Best regards,

2010/11/22 Kornkeo P. (タイ)

Dear Fuse San, How are you doing? I have been thinking and wanted to tell you this. Regarding the funds raising for establish a school at ABK projects, have you informed the former staff, teacher, lecturer of seminar session, present and former student, teacher of language school? Just only idea on my thoughts. Thank you for letting me share the ideas to you. Best regards,

2010/11/24 奥山節子 (日本)

遅くなってすみません。同窓生募金送ります。お体を大切にしてお励み下さい。

2010/11/25 Pilaipan M. (タイ)

Dear Fuse sama, 私は、元 AOTS の研修生で ABK に滞在したことのある人に会いました。この方も寄付したいようです。できれば、私に E-mail で寄付内容と方法を送ってください。私はそれを寄付したい人に送ります。よろしく願います。

2010/11/29 小平真巳 (日本)

募金受付のご担当者様:いつもお世話になっております。AOTSの小平と申します。実は、現在バングラデシュから来日中の、Dr. A.K.M. Moazzem Hussain より、貴財団から同氏に協力ご依頼がありました ABK 同窓生募金について、募金をされたいとの申し出がありました。小生が Hussain 氏から現金を預かり、今朝銀行振り込みにより 20,000 円を同氏の名前により振り込みましたので、ご確認下さい。よろしく願い致します。

ご入会とご寄付のお願い

当協会は、政府の補助金を受けていない純民間運営の公益法人ですので、財源に限りがあり、皆様方からお送りいただく会費、寄付金は、本協会の活動を支える貴重な財源となっています。何卒ご理解、ご協力をお願い致します。

協会のあらまし

名 称：財団法人アジア学生文化協会
ASIAN STUDENTS CULTURAL ASSOCIATION
(ASCA)
所在地：東京都文京区本駒込2丁目12番地13号

代表者：理事長 小木曾 友

設 立：1957年（昭和32年）9月18日
故穂積五一氏創設

目 的：日本とアジア諸国の青年学生が共同生活を通じて、人間的相和と学術、文化および経済の交流をはかることにより、アジアの親善と世界の平和に貢献することを目的とする。

◇主な事業◇

- (1) 留学生宿舍の運営
- (2) 留学生日本語コースの運営（進学希望者向けの日本語を中心とする教育）
- (3) 留学生に対する情報提供支援
- (4) アジア語学セミナー
- (5) 帰国留学生のアジア文化会館同窓会、(社)日・タイ経済協力協会、ABK留学生友の会との連携・協力

◇会費（年額）◇

正会員 1口 1万円
賛助会員 1口 5万円
特別会員 1口 10万円

会員には広報誌「アジアの友」が無料配布されます。また、広報誌購入だけを希望される方には、購読料年間3千円（学生2千円）でお送りしています。

本誌で広告してみませんか。

団体・企業を問わず、編集部へご相談ください。

日本留学生活に必要な最新のニュースを毎月届けます！

ABK 留学生メールニュース

ビザ手続き関連情報

医療・保険情報

就職アルバイト情報

イベント情報

各種試験情報

奨学金情報

外国人相談情報 他

登録は WEB から <http://www.jpss.jp>

後 記

タイ国法人泰日経済技術振興協会（TPA）は、1973年1月に設立認可され、バンコクのウー・チュリアン財団ビル5階を借り1973年3月にその事業を開始した。そして、今年、38年目。スクムヴィット通りソイ29に土地を求め、1975年8月に校舎を完成、移転し、1985年に別館を増築し、更に、新たに土地を得て、1998年付属技術振興センター（TPI）を開設し、タイの工業化を牽引し、多大な貢献を果たしてきた。これまでのTPAの発展を推進してきた中核を担う人たちは、それでは満足せず、TPA設立以来夢見てきた念願の大学をついに設立、2007年にスタートさせた。来年（2011年）には初めての卒業生を社会に送り出す。この度、ABK同窓生募金に当協会はTPAから、多大なご寄付とさらなる協力をいただいている。「成功した子供（TPA）が親（ABK：当協会）に恩を返すのはあたりまえ」と言った理事がいる。親も期待に答えるような仕事を目指さねばと。(F)

アジアの友 2010年12月号・2011年1月号

2010年12月20日発行（通刊第488号）

年間購読（送料共）3,000円（学生2,000円）1部 500円（税込）

発行人 小木曾 友
編集者 アジアの友編集部
発行所 財団法人 アジア学生文化協会
東京都文京区本駒込2-12-13 (〒113-8642)
電話番号：03-3946-7565/4121 ファクシミリ：03-3946-7599
振替口座：00150-0-56754 E-mail: tomo@abk.or.jp
ホームページ: (<http://www.abk.or.jp/>)

published by ASIAN STUDENTS CULTURAL ASSOCIATION
(ASIA BUNKA KAIKAN)
2-12-13, Honkomagome, Bunkyo-ku, Tokyo, 113-8642, JAPAN
☎+81-3-3946-7565/4121 ☎+81-3-3946-7599
Email: tomo@abk.or.jp
Home Page: <http://www.abk.or.jp/>

「アジアの友」の購読会員（年3,000円・学生2,000）にご入会下さい。振替用紙又は電話等にて。

「ABK 同窓生募金」へのご協力のお願い

(財) アジア学生文化協会では、現在、下記の通り、「ABK 同窓生募金」を行っています。これまで長年にわたってABKと縁を結んだ方々皆様(留学生OB・OGをはじめ、日本人関係者)にご協力をお願いしています。なお、ご寄付して下さった方々は、そのお名前を、金額の多寡にかかわらず、記念銘板に刻印し、長く保存させていただく考えております。また、高額寄付者への顕彰を別途用意いたします。世界的な不況の折、誠に心苦しい限りですが、何卒、ご理解とご協力を下さいますようお願い申し上げます。

財団法人アジア学生文化協会 (ASCA)

理事長 小木曾 友

募金内容

1. 名 称 同窓生募金
2. 目標額 50,000,000 円 (伍千万円也)
3. 寄付金額 一口 10,000 円 <一口未満でもお受けします。但し、一口未満の時は 1000 円以上をお願いします>
4. 使 途 ABK が設立する学校法人の「運営資金」に当てる (注)
(注) 学校設立には、校舎建設資金 (約 5 億円) のほかに、教育の健全性を保証するために「運営資金」 (約 5,000 万円) を所有することが必要です。募金はそのためのものとします。
5. 募金対象 ABK と兄弟寮に居住したことのある各国 (在日を含む) 留学生・技術研修生・日本人学生の OB/OG (約 1,000 人)、ABK 日本語コースの卒業生 (約 4,000 人)、及び ASCA の日本人職員・会員等 (約 1,000 人)、並びに本募金趣旨に賛同されるすべての皆様
6. 期 間 2010 年 4 月 1 日から 2 年間
7. 送金方法 次の 1)、2)、3) のいずれかの方法で、ご送金下さい。

1) クレジットカード決済による送金 (下記ウェブサイトで手続きできます)

寄付のお申し込み <http://www.abk.or.jp/abkd/fund/fund.html>

*セキュリティ上の必要から、1 回の送金は上限 300,000 円 (参拾万円也) をお願いします。

2) 銀行振込みによる送金 (下記銀行口座にお振り込み下さい)

銀 行 名	みずほ銀行 本郷支店
口座番号	普通預金 NO.2789045
口座名義	財団法人 アジア学生文化協会
住 所	東京都文京区本駒込 2-12-13 ☎ 03-3946-4121

3) 郵便振替による送金

郵便振替口座	00150-0-56754
加入者名	財団法人 アジア学生文化協会

*振替用紙は「アジアの友」に挟み込まれています

お問合せ先: (財) アジア学生文化協会 50 周年記念事業委員会事務局

〒113-8642 東京都文京区本駒込 2-12-13 アジア文化会館

Tel.+81-3-3946-4121 Fax.+81-3-3946-7566 E-mail: asca50com@abk.or.jp